

子どもたちが、よりよく生きる
一歩を踏み出すきっかけとなる
道徳授業のあり方

日本道徳教育学会神奈川支部道徳教育研究大会

令和3年12月25日

筑波大学附属小学校 加藤宣行

「特別の教科 道徳(道徳科)」の内容項目の一覧

キーワード	小学校第1学年及び第2学年(19)	小学校第3学年及び第4学年(20)	小学校第5学年及び第6学年(22)	中学校(22)	キーワード
A 主として自分自身に関すること					
善悪の判断、自律、自由と責任	(1) よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行うこと。	(1) 正しいと判断したことは、自信をもって行うこと。	(1) 自由を大切にし、自律的に判断し、責任のある行動をすること。	(1) 自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつこと。	自主、自律、自由と責任
正直、誠実	(2) うそをついたりごまかしをしたりしないで、素直に伸びと生活すること。	(2) 過ちは素直に認め、正直に明るい心で生活すること。	(2) 誠実に、明るい心で生活すること。	(2) 素直に素直な生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、前向きな姿勢で、安全で調和のある生活をする。	
節度、節制	(2) 健康や安全に気を付け、物を金銭を大切にすることは、自己を大切にすること。規則正しい生活を送ること。	(2) 健康や安全に気を付け、物を金銭を大切にすることは、自己を大切にすること。規則正しい生活を送ること。	(2) 健康や安全に気を付け、物を金銭を大切にすることは、自己を大切にすること。規則正しい生活を送ること。	(2) 健康や安全に気を付け、物を金銭を大切にすることは、自己を大切にすること。規則正しい生活を送ること。	節度、節制
個性の伸長	(4) 自分の特徴を気付くこと。	(4) 自分の特徴に気付く、長所を伸ばすこと。	(4) 自分の特徴を知って、短所を改めて長所を伸ばすこと。	(2) 健康や安全に気を付け、物を金銭を大切にすることは、自己を大切にすること。規則正しい生活を送ること。	向上心、個性の伸長
希望と勇氣、努力と強い意志	(6) 自分のやるべき勉強や仕事をしっかりと行うこと。	(6) 自分でやるように決めた目標に向かって、強い意志をもち、粘り強くやり抜くこと。	(6) より高い目標を立て、希望と勇氣をもち、困難があってもじけずに努力して前事をやり抜くこと。	(4) より高い目標を設定し、その達成を目指す、希望と勇氣をもち、困難や失敗を乗り越えて着実にやり抜くこと。	希望と勇氣、克己と強い意志
真理の探究			(6) 真理を大切にし、物事を探究しようとする心をもつこと。	(6) 真理を大切にし、真理を探究して新しいものを生み出すと努めること。	真理の探究、創造
B 主として人との関わりに関すること					
親切、思いやり	(6) 身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。	(6) 相手のことを思いやり、進んで親切にすること。	(7) 誰に対しても思いやりの心をもち、相手の立場に立って親切にすること。	(6) 思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること。	思いやり、感謝
感謝	(7) 家族など日頃世話になっている人々に感謝すること。	(7) 家族など生活を支えてくれている人々や現在の生活を築いてくれた高齢者に、尊敬と感謝の気持ちをもって接すること。	(8) 日々の生活が家族や通学からの多くの人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それに応えること。		
礼儀	(8) 気持ちのよい挨拶、動作などに心がけて、明るく接すること。	(8) 礼儀の大切さを知り、誰に対しても真心をもって接すること。	(9) 時と場合をわきまえて、礼儀正しく真心をもって接すること。	(7) 礼儀の意義を理解し、時と場合に応じた適切な言動をとること。	礼儀
友情、信頼	(9) 友達と仲よく接し、助け合うこと。	(9) 友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと。	(10) 友達と互いに理解し、学び合って友情を深め、個性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと。	(8) 友達の善きや悪きを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに助け合い、高め合うとともに、個性についての理解を深め、悩みや苦悩を相談しながら人間関係を築いていくこと。	友情、信頼
相互理解、寛容			(11) 自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、謙虚な心をもち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること。	(9) 自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いるいるなりの見方や考え方を理解し、寛容の心をもって謙虚に他と学び、自らを高めていくこと。	相互理解、寛容
C 主として集団や社会との関わりに関すること					
規則の尊重			(12) 法やまじりの意義を理解した上で進んでそれを守り、自己の権利を大切にし、義務を果たすこと。	(10) 法やまじりの意義を理解し、それを守り進んで守るとともに、そのよりよい在り方について考え、自己の権利を大切にし、義務を果たして、法律ある安定した社会の実現に努めること。	遵法精神、公徳心
公正、公平、社会正義			(13) 誰に対しても差別をすることや偏見をもつことなく、公正、公平な態度で接し、正義の実現に努めること。	(11) 正義と公正を重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努めること。	公正、公平、社会正義
勤労、公共の精神	(12) 働くことのよさを知り、みんなのために働くこと。	(13) 働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働くこと。	(14) 働くことや社会に奉仕することの意義や価値をもち、その意義を理解し、公共のために役に立つことをすること。	(12) 社会全体の意義と社会連帯の自覚を高め、公共の精神をもってよりよい社会の実現に努めること。	社会参画、公共の精神
家族愛、家庭生活の充実	(13) 父母、祖父母を敬愛し、進んで家事手伝いなどをして、家族の役に立つこと。	(14) 父母、祖父母を敬愛し、家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくること。	(15) 父母、祖父母を敬愛し、家族の善きを求めて、進んで役に立つことをすること。	(13) 勤労の善きや意義を理解し、将来の生き方について考えを深め、勤労を通じて社会に貢献すること。	勤労
よりよい学校生活、集団生活の充実	(14) 先生を敬愛し、学校の人々に親しんで、学校や学校の生活を楽しくすること。	(15) 先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合って楽しい学校や学校をつくること。	(16) 先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合ってよりよい学校や学校をつくることに、様々な集団の中での自分の役割を自覚して集団生活の充実を目指すこと。	(14) 父母、祖父母を敬愛し、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築くこと。	家族愛、家庭生活の充実
伝統や文化の尊重、国や郷土を愛する態度	(15) 我が国や郷土の文化と生活に親しみ、愛着をもつこと。	(16) 我が国や郷土の伝統と文化を大切に、国や郷土を愛する心をもつこと。	(17) 我が国や郷土の伝統と文化を大切に、先人の努力を知り、国や郷土を愛する心をもつこと。	(14) 教師や学校の人々を敬愛し、学校や学校の一員としての自覚をもち、協力し合ってよりよい校風をつくることと、様々な集団の善きや集団の中での自分の役割と責任を自覚して集団生活の充実を目指すこと。	よりよい学校生活、集団生活の充実
伝統や文化の尊重、国や郷土を愛する態度	(15) 我が国や郷土の文化と生活に親しみ、愛着をもつこと。	(16) 我が国や郷土の伝統と文化を大切に、国や郷土を愛する心をもつこと。	(17) 我が国や郷土の伝統と文化を大切に、先人の努力を知り、国や郷土を愛する心をもつこと。	(15) 郷土の伝統と文化を大切に、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬の念を深め、地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、進んで郷土の発展に努めること。	郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度
国際理解、国際親善	(16) 他国の人々や文化に親しむこと。	(17) 他国の人々や文化に親しみ、関心をもつこと。	(18) 他国の人々や文化について理解し、日本人としての自覚をもって国際親善に努めること。	(17) 優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献するとともに、日本人としての自覚をもって国を愛し、国家及び社会の形成者として、その発展に努めること。	我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度
国際理解、国際親善	(16) 他国の人々や文化に親しむこと。	(17) 他国の人々や文化に親しみ、関心をもつこと。	(18) 他国の人々や文化について理解し、日本人としての自覚をもって国際親善に努めること。	(18) 世界の中の日本人としての自覚をもち、他国を尊重し、国際的視野に立って、世界の平和と人類の発展に寄与すること。	国際理解、国際貢献
D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること					
生命の尊さ	(17) 生きることのすばらしさを知り、生命を大切にすること。	(18) 生命の尊さを知り、生命あるものを大切にすること。	(19) 生命が多くの生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重すること。	(19) 生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること。	生命の尊さ
自然愛護	(18) 身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接すること。	(19) 自然のすばらしさを不思議さを感じ取り、自然や動植物を大切にすること。	(20) 自然の偉大さを知り、自然愛護を大切にすること。	(20) 自然の崇高さを知り、自然愛護を大切にすることの意義を理解し、進んで自然の愛護に努めること。	自然愛護
感動、畏敬の念	(19) 美しいものに触れ、すがすがしい心をもつこと。	(20) 美しいものや崇高なものに感動する心をもつこと。	(21) 美しいものや崇高なものに感動する心や人間の力を極めたものに対する畏敬の念をもつこと。	(21) 美しいものや崇高なものに感動する心をもち、人間の力を極めたものに対する畏敬の念を深めること。	感動、畏敬の念
よりよく生きる喜び			(22) よりよく生きようとする人間の強さや勇氣を理解し、人間として生きる喜びを感じる。	(22) 人間には自らの弱さや無力さを克服する強さや勇氣を生きようとする心があることを理解し、人間として生きることの喜びを見いだすこと。	よりよく生きる喜び

特別の教科「道徳(道徳科)」の内容項目一覧

身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。

平成26年10月21日 中教審答申
「道徳に係る教育課程の改善等について」

- 道徳の時間において、読み物の登場人物の**心情理解のみに偏った形式的な指導**が行われる例がある
- 発達の段階などを十分に踏まえず、児童生徒に望ましいと思われる**分かりきったことを言わせたり書かせたりする授業**になっている例がある
- 多くの課題が指摘されている

「読み物道徳」

教材を読むだけの「読み物道徳」から、 「考え、議論する道徳」への転換を目指す

※以下の指導方法は、それぞれが独立した指導の「型」を示しているわけではない。それぞれに様々な展開が考えられ、例えば読み物教材を活用しつつ問題解決的な学習を取り入れるなど、それぞれの要素を組み合わせた指導を行うことも考えられる。

	×	読み物教材の登場人物への 自我関与が中心の学習	問題解決的な学習	道徳的行為に関する体験的な学習	×	
ねらい		教材の登場人物の判断や心情を自分との関わりで多面的・多角的に考えることなどを通して、道徳的諸価値の理解を深める。	問題解決的な学習を通して、道徳的な問題を多面的・多角的に考え、児童生徒一人一人が生きていく上で出会う様々な問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う。	役割演技などの疑似体験的な表現活動を通して、道徳的価値の理解を深め、様々な課題や問題を主体に解決するために必要な資質・能力を養う。		
具体例	導入 展開 閉 終末	登場人物の心情理解のみの指導	学習指導要領においては、道徳科の目標を「道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己をみつめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己（人として）の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」と定めている。この目標をしっかりと踏まえたものでなければ道徳科の指導とは言えない。	道徳的価値に関する内容の提示 教師の話や発問を通して、本時に扱う道徳的価値へ方向付ける。	道徳的価値を実現する行為に関する問題場面の提示など 教材の中に含まれる道徳的諸価値に関わる裏幕場面を把握する。 日常生活で、大切さが分かっているにもかかわらず実践できない道徳的行為を想起し、問題意識を持つ。	主題やねらいの設定が不十分な単なる生活経験の話し合い
			<div style="border: 2px solid blue; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block; color: red; font-weight: bold;">自分事として深く考える</div>	<div style="border: 2px solid blue; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block; color: red; font-weight: bold;">議論を通して考える</div>	<div style="border: 2px solid blue; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block; color: red; font-weight: bold;">身体も使って深く考える</div>	
			<div style="border: 2px solid yellow; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block; font-weight: bold;">自我関与</div>	<div style="border: 2px solid yellow; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block; font-weight: bold;">問題解決</div>	<div style="border: 2px solid yellow; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block; font-weight: bold;">役割演技</div>	
			<div style="border: 2px solid yellow; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block; font-weight: bold;">自分だったらどうする？</div>	<div style="border: 2px solid yellow; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block; font-weight: bold;">一番よい方法は？</div>	<div style="border: 2px solid yellow; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block; font-weight: bold;">自分たちでやってみよう！</div>	
		<p>道徳的価値に関する内容の提示 教師の話や発問を通して、本時に扱う道徳的価値へ方向付ける。</p> <p>自分事として深く考える</p> <p>自我関与</p> <p>自分だったらどうする？</p> <p>まとめ 教師による話。本時で学習したことを今度どのように生かすことができるかを考える。 本時を振り返り、本時で学習したことを今度どのように生かすことができるかを考える。 道徳的諸価値に関する根本的な問いに対し、自分なりの考えをまとめる。 感想を聞き合ったり、ワークシートへ記入したりして、学習で気付いたこと、学んだことを振り返る。</p>	<p>問題の発見や道徳的価値の想起など 教材や日常生活から道徳的な問題を見つめる。 自分たちのこれまでの道徳的価値の捉え方を想起し、道徳的価値の本質や意味・意義への問いを提起（原理・根拠・適用）</p> <p>議論を通して考える</p> <p>問題解決</p> <p>一番よい方法は？</p> <p>探究のまとめ （解決策の選択や決定・諸価値の理解の深化・課題発見） 問題を解決する上で大切にしたい道徳的価値について、なぜそれを大切にしたいのかなどについて話し合い等を通じて考えを深める。 問題場面に対する自分なりの解決策を選択・決定する中で、実現したい道徳的価値の意義や意味への理解を深める。 考えた解決策を身近な問題に適用し、自分の考えを再考する。</p>	<p>道徳的価値を実現する行為に関する問題場面の提示など 教材の中に含まれる道徳的諸価値に関わる裏幕場面を把握する。 日常生活で、大切さが分かっているにもかかわらず実践できない道徳的行為を想起し、問題意識を持つ。</p> <p>身体も使って深く考える</p> <p>役割演技</p> <p>自分たちでやってみよう！</p> <p>問題場面の役割演技や道徳的行為に関する体験的な活動の実施など ペアやグループをつくり、実際の問題場面を役割演技で再現し、登場人物の葛藤などを理解する。 道徳的行為を体験し、その意義などを理解する。</p> <p>役割演技や道徳的行為を体験したり、それらの様子を見たりしたことをもとに、多面的・多角的な視点から問題場面や取り得る行動について考え、道徳的価値の意味や実現するために大切なことを考える。 同様の新たな場面を提示して、取りうる行動を再現し、道徳的価値や実現するために大切なことを体験することを通して実生活における問題の解決に共通しをもたせる。</p>		

道

場面発問型

の高い多様な指導方法

(イメージ)

テーマ発問型

守					破	離
×	読み物教材の登場人物の自我関与が中心の学習	問題解決的な学習	道徳的行為に関する体験的な学習	×	自らの問いに向かって真剣に考え議論する学習	
登場人物の心情理解のみの指導	教材の登場人物の判断や心情を自分との関わりの中で多面的・多角的に考えることを通して、道徳的諸価値の理解を深める。	問題解決的な学習を通して、道徳的な問題を多面的・多角的に考え、児童生徒一人一人が生きる上で出会う様々な問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う。	役割演技などの疑似体験的な表現活動を通して、道徳的価値の理解を深め、様々な課題や問題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う。	主題やねらいの設定が不十分な単なる生活経験の話し合い		
	自我関与	問題解決的学習	体験的		く 深 く 考 え た く な る	子 ど も と 作 る 生 き た 授 業

教材を読むだけの「読み物道徳」から、
「考え、議論する道徳」への転換を目指す」

心を動かさせるための10のポイント

- ①内容項目をどう考えるか
- ②教材をどう読むか
- ③深く考えるきっかけとなる「真の問い」をどうつくるか
- ④真剣に議論する「問い返し」をどれだけ考えられるか
- ⑤板書どのようにつくるか
- ⑥子どもたちの学び合いの場をいかに演出するか
- ⑦いかにして実生活につなぐか
- ⑧何を学んだのかをいかに子どもたちに自己評価させるか
- ⑨どのようにして授業に一本筋を通すか
- ⑩いかにして目の前の子どもたちとしかできない授業をつくりあげるか

親切にする



深く考え、議論する道徳授業のポイント

- ① テーマをポンと与える
- ② 「おや？」と思わせる
- ③ 子どもとともにテーマを「問い」に変容させる
- ④ 「問い」に対する気づき、わかりを子どもの言葉でまとめる
- ⑤ 始めと終わりの自分を較べさせる

子どもたちが、よりよく生きる一歩を踏み出す
きっかけとなる授業づくりを目指して・・・

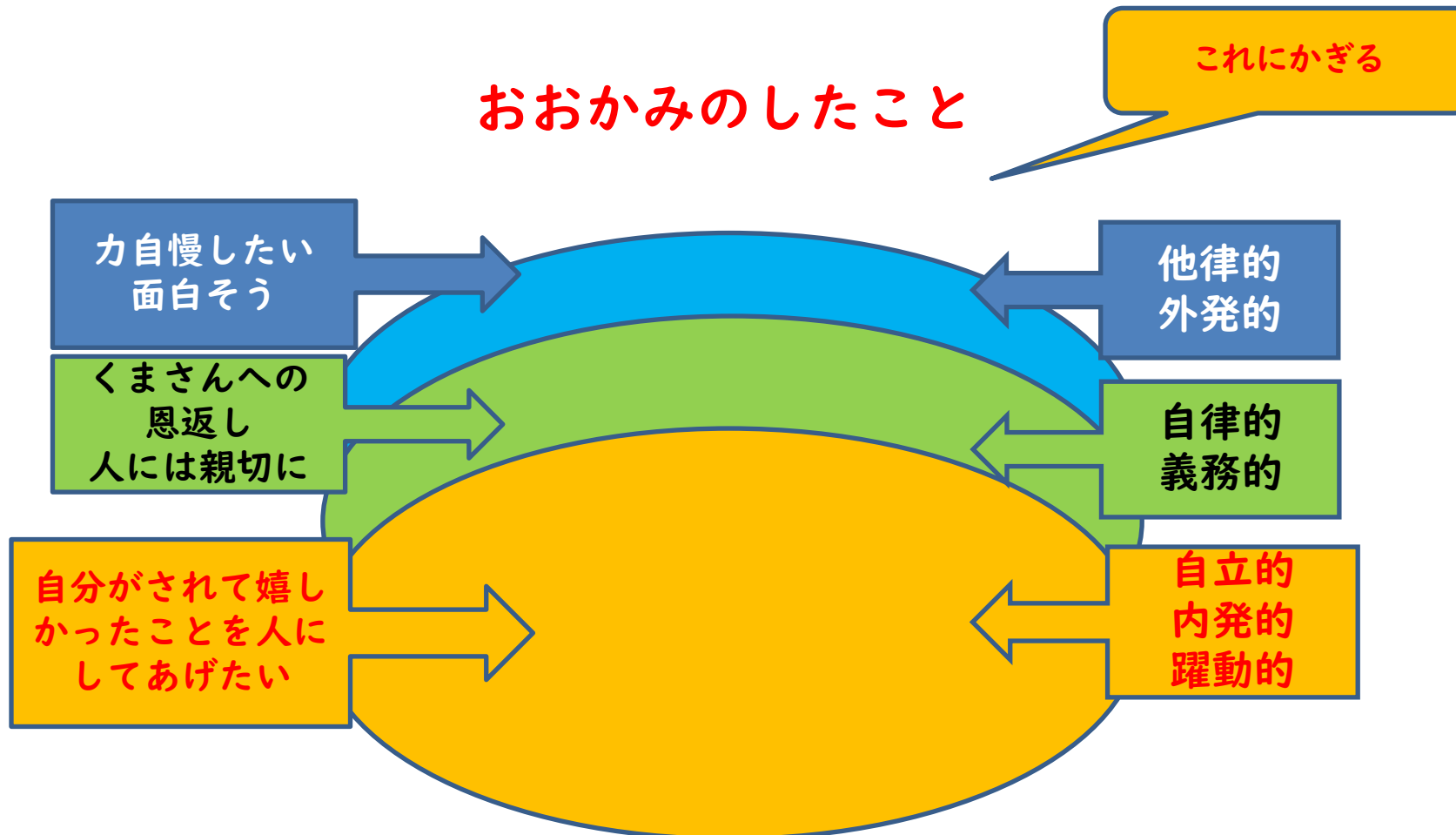
発問のポイント

□テーマに向かった問い

- ①学習者の意識の比較
- ②登場人物の比較
- ③主人公の意識の変容の比較
- ④場面の比較
- ⑤仮説を立てた比較(教材に描かれていない世界の比較)
- ⑥行為を生む動機・本質的な「大本の心」の比較

発問のポイント

⑥行為を生む動機・本質的な「大本の心」の比較



板書をつくる

○月△日□回

やさしくすると
(始めの認識)
○相手が喜ぶ
ほめられる

まとめ
・キーワード
・自分の言葉
・「はじめ」
「分かった」
「いいなあ」
「これからは」

授業中の化学反応

? → !
みえないものを
みせる

やさしくすると
(意識の変容)
○相手が嬉しいと
自分も嬉しい

発問(問い)の種類

- A** 場面を把握したり、確認したりするための発問
→誰が出てきましたか。その時の気持ちは？
- B** 問題の所在を探り、改善方法を判断させる発問
→問題となるのはどこか、よりよい方法は何か。
- C** 本質を深く考えさせるための発問
→なぜこのような行動をとることができたのか
- D** 子どもたちの発言を生かしながら、更に深く追究するための発問

発問の4つの類型

A 閉じた発問、動かない発問

- 場面を把握したり、確認したりするための発問

B 整理する発問

C 開かれた発問、大きな発問

- 本質を深く考えさせるための発問

D 追究する発問、ゆれる発問

- 子どもたちの発言を生かしながら、更に深く追究するための発問

発問の4つの類型

Aの発問は、場面ごとに登場人物の気持ちを聞いていくという展開が一般的である。

Bの発問は、問題の所在を明確にして、最善解を検討していく展開が一般的である。

Cは、全体を通してテーマとなり得るような大きな発問であり、1時間の授業を通して一貫して意識されるものになるべきである。

Dは、教師の投げかけから始まり、次第に子ども自身への問題意識を喚起するような発問で、この類の発問はいつしか子ども自身の「問い」へと変容する。つまり、「発問」というより思考を揺さぶる「問い」と言うべきものであり、教師「問い返し」が必要となる。

テーマ型授業の体系

(アルファベット:教師の手立て 数字:子どもの活動)

A:教師が子どもの問題意識を喚起するような問いを投げかける。

1. 是非とも考えたいと思う問いを持つ
2. 問いに関して、自分なりの予想を立てる
3. みんなが立てた予想を分類する
4. 予想を資料を読んで確かめる。

**B : 子どもの反応を適切な言葉を使って意味づけし、
価値を構造的に分析させ、知的理解を図る。**

(板書の工夫をする)

- ①みんなが立てた予想を具体的に確認し合う。
- ②予想以外の新しい考え方を見つける

C : 教師の考えも、必要に応じて子どもに問いかける

(発問の工夫をする)

5. 新しい考え方を自分の目標に照らし合わせて確認し合う。
6. 学んだことを自分自身の行動に生かそうとする

内容項目理解

- 概念崩し
- 知っているつもりが分かっていなかったことに対する意識のズレ
- 修正本能
- 問題意識
- 観点の多面的・多角的な広がり
- 発見
- 読みの変容

教材をどう読むか

□一人の人間として読む

・価値に縛られずに読む

□人間のよさから読む

・善悪併せ持つ人間の、「よりよく生きる」面から

□価値を構造的に読む

・価値は単体では成り立っていない

□多面的・多角的に読む

・批判的に読む

発問研究

- 何がしたいのか
- 子どもたちをどこにもっていきたいのか
- 一つで1時間もつ
- 自ずとストーリーを把握できる
- 自ずと自分自身を重ねる
- 自ずと多面的・多角的な視点が身につく

- 知的理解
- わかった！
- なるほど、そういうことか
- 情的理解
- いいなあ
- すてきななあ、そういう人になりたいなあ
- 実践意欲
- やってみたいなあ

ねらいの具体化・複数化

- 知的理解
 - 人に親切にするよさがわかる
- 情的理解
 - そのような心をいいなあ、と思う
- 実践意欲
 - そのような心が自分の中にもあることに気づき、実生活でやってみようとする

板書のポイント

- なんといっても発問を工夫し板書に**視覚的に**反映
- タイトルを利用する（**当たり前**（「そういうものだ」**を覆す**）
- 一つの方角を共有できたら、その**対極を意識して書く**
- 問い返しの引き出しを増やし、板書を**発展させる**
- 板書には**ゴールを明示**
- よりよい世界を子どもに見つけさせる**スキを作る**（全て書かない。子どもに書かせる）
- **道徳ノートと連動**させる

最新情報をチェックしてください

フェイスブック

Facebook . . . www.facebook.com/groups/ktodoutoku/

インスタグラム

オンラインサロンもやってます

Instagram . . . 「KT0.nob」

ツイッター

Twitter . . . @nobrand1960